

ゆたか俱楽部 よもやま話

vol. 22

クルーズご意見番“初代クルーズマスター 松浦睦夫”が語る

貨物だけになりました。

ゆたか俱楽部の「日本一周フェリー

の旅」は、かれこれ30年ほど毎年続いています。日本列島（北海道・本州・四国・九州の4島）を巡るのが基本で、北海道を必ず含むので、冬は避けて3月から11月に設定しています。日本を代表する大型フェリーを乗り継ぎ、走行距離2800～3000キロの旅です。

コースによっては陸路も活用して、ホテルに1泊か2泊しながらの6日間から8日間になっています。

日本一周フェリーの旅では、フェリーに乗るだけでなく、フェリーに宿泊していくのも旅の大事な楽しみとして企画しています。船内ゆったり快適に過ごしていただけるよう船室は特等クラスまである船に限定し、お客様には相部屋のツーリストタイプから特等バス付きまでのカテゴリーの中から選んでいただけるようにしていますので、利用できるフェリーが限られてくるのです。

現在、日本の大型フェリーはそれほど数がありません。北海道に行くには太平洋側に2つの航路があります。「太平洋フェリー」は名古屋から仙台

経由で苫小牧へ、「商船三井フェリー」は大洗から苫小牧へ行きます。一方、日本海側が1つだけで、「新日本海フェリー」は苫小牧または小樽から、秋田、新潟、舞鶴、敦賀へ行きます。もう2社ありましたが、運営会社が倒産しました。日本郵船は小会社の近海郵

船がありますが、釧路、十勝は貨物航路になっています。

東京・近郊から南へ行くフェリーは昔はたくさんありました。現在は「オーシャン東九フェリー」が新門司、徳島、東京・有明を行き来しています。また来年7月には、ぱしふいくびいなすの親会社の新日本海フェリーのグループ会社となる東京九州フェリーが横須賀～新門司（北九州）の新設航路が開設する予定です。

九州へ行くフェリーも少なくなりました。新潟・直江津から博多へ行くフェリー、大阪から松山・宿毛へ行くフェリーもありましたが、全て今はあります。大島運輸（現マルエーフェリー）は、東京・有明から志布志経由、奄美大島、沖縄まで行っていますが、東京からは

日本一周なので本州をはじめ北海道・四国・九州の4島めぐりをしたいのですが、実は2回に1回は四国に行つていません。東京から四国に渡るには「オーシャン東九フェリー」ですが、現在はレストランが簡略化され、売店でお弁当を購入し、電子レンジで温めて食べもらうスタイルになり、更に船室は特等クラスもなく、お客様に提供する自信がなくこのフェリーは使用していません。四国と九州を結ぶフェリーは豊後水道経由に限られ、どうしても似たコースになってしまいます。だったら瀬戸内海クルージングを楽しんでいただくか、大阪から鹿児島まで一気に渡る方が、お客様にとって良いのではと考えています。

今は日本一周コースが作りにくくなりました。これが正直な私の感想です。近年ではお一人の方も気軽に参加できるようになります。参加人数がある一定数超えますと、お客様に船長の直筆サイン入り「日本一周証明書」

をお渡しています。これは日本の旅行会社の中でゆたか俱楽部だけの独自サービスで、サインを書いていただく厚紙の用紙を用意して、フェリーに乗船したら毎回各船の船長にサインをいただきます。日本一周フェリーの旅を企画してから多数の旅行会社に真似されてきましたが、船長の直筆サイン入り「日本一周証明書」だけはどこの会社もしていません。私どもは募集人員を最大26名様位でやつてきていますので、続けられるのではないかと思っています。



日本一周クルーズパンフレット

ゆたか俱楽部を設立する以前のことですが、ある旅行会社の北海道支社に勤務していた頃、「北海道～西九州一周フェリーの旅」を企画し、1か月で1000名様以上集客したことがあります。利用したのは「太平洋フェリー」の苫小牧・名古屋（大阪からは関西汽船で別府間1泊）・大分・名古屋・苦小牧（当時は太平洋フェリーは大分～名古屋間も就航していた）・太平洋フェリー5泊・ホテル2泊の8泊9日。旅行代金はすべての食事・観光代を入れて5万円。船内泊は雑魚寝だったから実現できた旅行代金です。昭和50年フェリーの売上げが北海道支社内でトップになりました。この時の経験が今に続く日本一周フェリーの旅の原点になっているのかもしれません。